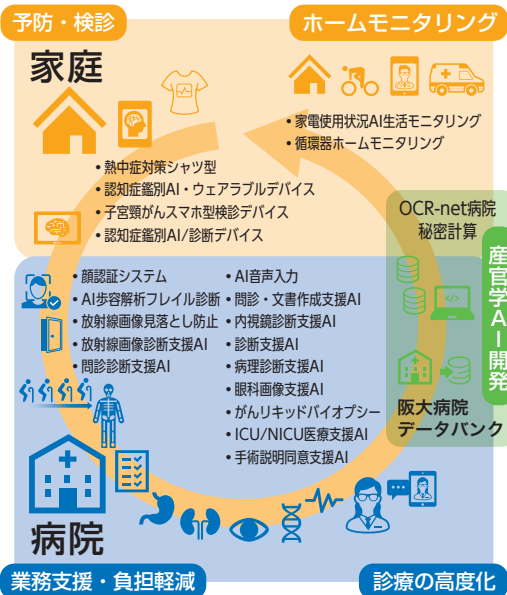


患者さん本位の
最先端医療実現に向けて

AI医療センター

動画 1



家庭から病院までの循環型トータルAI医療システム

電子カルテに音声入力
「AIプロジェクト部門」
は、医師・看護師の業務支

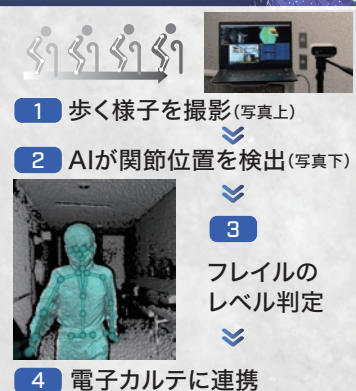
AI医療センターは、「AIプロジェクト部門」「AI研究支援部門」「AIデータバンク部門」の3部門で構成されています。



西田幸二センター長

本院は、ＡＩ（人工知能）技術を駆使し病気の超早期・超精密診断や医師と患者の良好なコミュニケーションの実現をめざす『ＡＩ基盤拠点病院（ＡＩホスピタル／内閣府）』の拠点病院に採択されています。ＡＩ医療センターは、２０１９年４月に開設され、当該プロジェクト全体の管理部門として、また、新病院を含む病院再開発に向けてＡＩを病院全体に導入し、最先端医療と医療過誤ゼロ、患者本位の全人的医療を実現するため、各診療科と連携し活動しています。

“歩くだけ”でフレイル診断



AIホスピタル実現に向けた研究・開発は順調に進んでおり、例えば、超高齢社会を迎え問題になっている高齢者のフレイル(虚弱)を診断できる自動診断システムの開発のため、臨床研究がスタートしています。患者さんが歩く様

歩くだけでフレイル診断

を集積・保存し利活用する「阪大データバンク」を運営するための部門です。連携企業が本院の医療データを使用して次世代医療機器を研究開発する際には、患者さんの同意を得るサポートなども行っています。

「AI研究支援部門」は、AI技術を医療分野に応用する研究・開発や、実用化において生じうる倫理的・法的な課題などの解決を支援しています。「AIデータバンク部門」は、

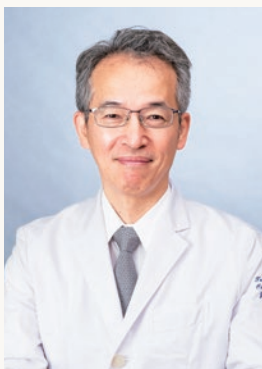
情や声のトーンなどから納得度を分析し、その結果をリアルタイムで医師にフィードバックすることで、患者さんの

- 1 歩く様子を撮影(写真上)
- 2 AIが関節位置を検出(写真下)



- 3 フレイルのレベル判定
- 4 電子カルテに連携

年頭所感



病院長
土岐 祐一郎

新年おめでとうございます。長い医師人生の間にバブル崩壊や大震災に遭遇し、これ以上の厄災はないと思っていましたら、昨年は新型コロナ禍に見舞われました。本院でも、集中治療部(ICU)、高度救命救急センター、呼吸器内科及びICU経験のある看護師等を中心に、医療従事者が多忙を極めています。本紙発行日現在でも、大阪府に緊急事態宣言が出されており、予断を許さない状況です。本院では今後も新型コロナウイルス感染症に万全の対策をとって臨みますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

子をカメラで撮影するだけで、AIがフレイルのレベルまでを判定し、治療方針の決定などをサポートします。また、腎臓病の病理診断などにおいて、人の目では判定が難しい変化を検知できる、病理画像診断システムも開発が進んでいます。

当センターの目標は、AI技術が搭載された機器や設備を導入するだけでなく、患者さんと医療従事者双方に役立つAI医療システムの実装により、患者さん一人一人に適した新しい医療、人間らしい医療を生み出すこと。「すべては患者さんのために」との思いで、プロジェクトを推進しています。

を力メテ撮影するだけで、
Aがフレイルのレベルまで
に判定し、治療方針の決定な
ことをサポートします。また、
胃腸病の病理診断などにおい
て、人の目では判定が難しい
変化を検知できる、病理画像
診断システムも開発が進んで
います。

学習も心もサポート



テレビ会議システムを使って天王寺動物園の飼育員さんと交流する子どもたち

院内学級



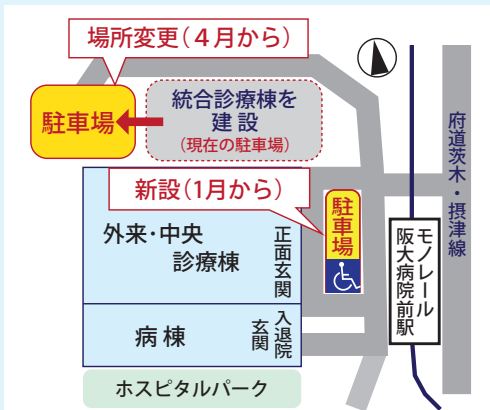
新型コロナウイルス 感染症について

【講師】
感染制御部長 朝野 和典

動画 2

お知らせ

駐車場の場所変更



4月から、現在の駐車場の場所に「統合診療棟」（令和7年オープン予定）という新しい建物の建設工事を開始します。これに伴い、駐車場の場所を変更します。変更後は駐車場から病院建

本院の小児医療センター内には「院内学級」があり、大阪府北部の病弱教育を担当する大阪府立刀根山支援学校の教員が授業を受け持っています。院内学級には小学部と中学部があり、それぞれ教室が1室ずつ設置されています。長期間の入院が必要な児童生徒も少なくなく、主治医から許可を受けて学習しています。治療のため教室に来ることができない児童生徒には教員が病室を訪れ、ベッドサイド授業を行っています。

院内学級は、子どもたちが退院した時にスムーズに地域の学校に戻ることができるように学習のサポートをするだけでなく、精神的な支えとしての役割も担っています。

本院では、コロナ禍の面会制限で入院中の赤ちゃんと会えないご家族のために、クラウドファンディング「新型コロナウイルス・入院中の赤ちゃん」と24時間会えるシステム構築を」に

クラウドファンディング目標達成

挑戦しました。1000人以上の方から3200万円を上回るご寄付を頂き、最終目標を達成することができました。多くの方々の温かいご支援に御礼申し上げます。

子どもたちは病氣やけがの治療へ不安を抱えながら入院しています。つい「なぜ自分だけが」と思うこともあるようですが、院内学級で同じように頑張っている仲間が存在が大きな心の支えになっています。子どもたちの情緒の安定は治療への意欲の向上につながります。

学習以外にも、例年小児医療センターデイルームで大運動会や学習発表会、夏祭りなどの行事を行っています（今年度は感染症拡大防止のため中止）。行事を通して子どもたちが協力し合う活動は、大きな成功体験になるでしょう。

院内学級では、これからも入院中の子どもたちに寄り添った教育を行ってまいります。

令和2年秋の紫綬褒章

澤 芳樹心臓血管外科長が受章



澤科長のコメント

「心臓移植や人工心臓治療に次ぐ第3の重症心不全の治療法として行ってきた心筋再生医療の開発研究を評価いただいたことをうれしく思います。今後も一人でも多くの患者を救うため、努力してまいります」

PHOTO

ホスピタル
ミニ・ニュース

TOPICS

理容室・美容室「こもれび」がリニューアル

令和2年5月14日



本院の理容室・美容室が「こもれび」として、昨年5月14日にリニューアルオープンしました。

カーテンで仕切られたプライベートスペースでの施術が好評です。ウィッグの取り扱いや、病棟への出張カットも承りますので、お気軽にご相談ください。

第15回

阪大病院がんサロンを開催

令和2年11月16日



オンコロジーセンターにおいて「がんと放射線治療」をテーマに専門の医師や看護師による講演の後、患者さんから具体的な質問をお受けしました。終了後のアンケートでは「放射線治療への理解が深まった」等のお声をいただきました。

献血を実施

令和2年12月18日



献血を済ませた南正人手術部長

大阪府赤十字血液センターによる献血が年に1、2回本学吹田キャンパスで行われています。昨年の12月18日に、医学部前に献血バスがやってきて、献血が実施されました。

新 診療科長紹介

●整形外科長

おかだ せいじ
岡田 誠司

このたび、整形外科長を拝命しました。整形外科は骨、軟骨、筋肉、靱帯、神経などの運動器全般に関わる疾患を対象としており、本院では骨折や変形性関節症、脊椎椎間板ヘルニアなどの一般的な整形外科疾患のみならず、ナビゲーションを用いた正確な人工関節手術や骨軟部悪性腫瘍、脊柱変形などの高度な技術を要する幅広い領域に対する診療をおこなっています。患者さんに受診して良かったと思われるよう、スタッフ一同丁寧な診察と安全な手術を心掛けて努力してまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。（令和3年1月1日就任）

動画はこちら

QRコードから関連動画をご覧いただけるようになりました



動画1

AI医療センター



動画2

新型コロナウイルス感染症対策について



動画3

脳神経外科

脳神経外科

脳神経外科は脳や脊髄の病気を担当します。20世紀は頭のけがや脳卒中、脳腫瘍などが大部分でしたが、近年はパーキンソン病やてんかんの手術も行うようになり、本態性振戦（ふるえ）や小児奇形、脊髄変性疾患や脊髄腫瘍、難治性疼痛といった疾患も診療対象になります。また、手術だけでなく、さまざまな薬による治療や超音波を用いた先進的な治療も行っています。

従来からの顕微鏡手術で腫瘍を取ったり血管をつないだりという脳神経外科のイメージを変えたのは、診断や手術で用いる技術や機器の進歩です。手術の安全性が向上し、手術時間も短くなることで以前より患者さんや医療スタッフの負担が軽減されています。例えば、カテーテルという細い管で血管内の手術が可能になり、頭を開かずに済む治療が広がりました。また、患者さんの意識を保ったままで行われる覚醒下手術は、脳機能を確認しながら手術を実施できるため、後遺症を最小限に抑えて最大限の脳腫瘍摘出ができるようになりました。

パーキンソン病治療に使う脳深部刺激装置も格段に発達しています。また、MRI（磁気共鳴画像装置）も、より鮮明でさまざまな画像が得られるようになり、診断技術が向上しました。大学病院である本院は、こうした高度な医療を提供できる環境にあります。技術革新は、手術のノウハウを伝える教育にも役立っています。手術をしている術者1人だけが顕微鏡で手元を見るのではなく、他のスタッフも3Dモニターで共有できるようになっています。また、当科は脳機能の解明など神経科学の研究にも力を注ぎ、外科治療の発展につなげようと努めています。

で用いる技術や機器の進歩です。手術の安全性が向上し、手術時間も短くなることで以前より患者さんや医療スタッフの負担が軽減されています。

脳や脊髄の病気に対応

新技術で安全な手術を

動画3



ナビゲーションシステムと3D外視鏡を用いたてんかん（焦点切除）手術の様子

でさまざまな画像が得られるようになり、診断技術が向上しました。大学病院である本院は、こうした高度な医療を提供できる環境にあります。技術革新は、手術のノウハウを伝える教育にも役立っています。手術をしている術者1人だけが顕微鏡で手元を見るのではなく、他のスタッフも3Dモニターで共有できるようになっています。また、当科は脳機能の解明など神経科学の研究にも力を注ぎ、外科治療の発展につなげようと努めています。

内視鏡使い高精度な診断・治療

検査後も安心 リカバリーチエア

内視鏡センター

内視鏡センターは、本院に通院・入院中の患者さんに、内視鏡による「診断」と「治療」を行っています。具体的には、消化器内視鏡検査、カプセル内視鏡検査、胆膵内視鏡検査、小腸内視鏡検査、気管支内視鏡検査と、それぞれの臓器疾患に対する内視鏡治療を実施しており、また、院内で発生した緊急止血や異物



除去にも対応しています。「内視鏡による診断」は年々増加しており、2019年度の実施件数は、上下部消化管内視鏡検査7507件、カプセル内視鏡検査69件、小腸内視鏡検査127件、気管支鏡検査1581件、小児内視鏡検査50件となっています。また、膵がんの増加による胆膵超音波内視鏡検査や穿刺細胞診（針を刺して病変部の細胞を吸引し診断する）も446件と急増しています。

「内視鏡による治療」では、食道がん・胃がん・大腸がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）に実績があり、5年間で1・5倍に増えており、各診療科から依頼される胃ろう造設も3倍以上と大幅に増加しています。

当センターは「超音波内視鏡」や「拡大内視鏡」なども導入しています。超音波内視鏡は、内視鏡の先端に超音波装置が付属し、胃などから他の臓器を観察・組織採取を行うなど、体内から病変を観察できます。また拡大内視鏡は、

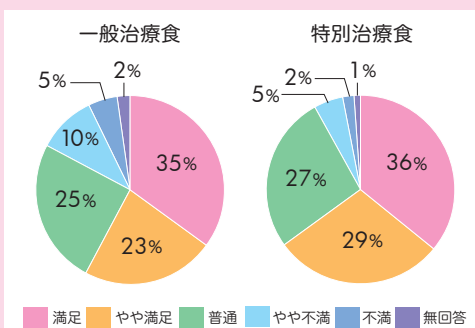
顕微鏡のように像を拡大する機能を持ち、高精度な診断が行えます。

高度な内視鏡検査を安全・効率的に行うため、当センターは、院内で使用される内視鏡を集中管理しています。感染対策として洗浄システムが一元管理され、定期的なモニタリング検査を実施しています。全ての内視鏡はナンバリングされ、貼付したバーコードタグにより、使用や洗浄の履歴も正確に把握できます。また、患者さんの負担が少ない、鎮静剤を使用した内視鏡検査のニーズが増えるなか、検査後に鎮静剤が切れるまで休んでいたというリカバリーチェアを増設しました。看護師がモニターで血圧などの全身状態をチェックしていますので、初めての患者さんも安心して内視鏡検査を受けていただけます。

当センターは、今後も医師・看護師・コメディカルが一体となり、最先端の低侵襲で安全な医療を提供し続けてまいります。

病院食 アンケート

\ 食事の満足度 /



昨年11月に病院食アンケートを実施しました。食事の満足度を伺った項目では、『満足・やや満足・普通』合わせて、一般治療食83%、特別治療食92%でした。

特別治療食では「味付きご飯は食べたいですか？」と調査した結果、75%の方が『食べたい』と回答されました。具体的には『炊き込みご飯(タケノコ、キノコ、クリなど)』や『炒飯(チャーハン)』を食べたいという意見を多くいただきました。これまで、塩分が多くなりがちな炒飯の提供はありませんでした。調理の工夫により塩分制限が必要な方にも楽しんでいただけるよう、メニュー開発に取り組んでまいります。

事務部長おすすめ

～秋の中華御膳～



メニュー

- あんかけ五目焼きそば
- 点心
- 中華スープ
- 中華風あえもの
- デザート

昨年11月27日に「事務部長おすすめ ～秋の中華御膳～」を提供しました。五目焼きそばには、隠し味に紹興酒(しょうこうしゅ)を使い、中華料理らしい点心も合わせて、うまみたっぷり・具材たっぷりの本格中華料理に仕上げました。病院食では珍しい中華料理に、患者さんからは「本物の中華の味だった」「治療で食欲が出なかったけど完食できた」と大好評。中華らしさをあしらったカードには延原事務部長からの直筆メッセージを添え、「治療の励みになった」とうれしいお声をいただきました。次回は3月に栄養マネジメント部長おすすめ御膳を予定しています。